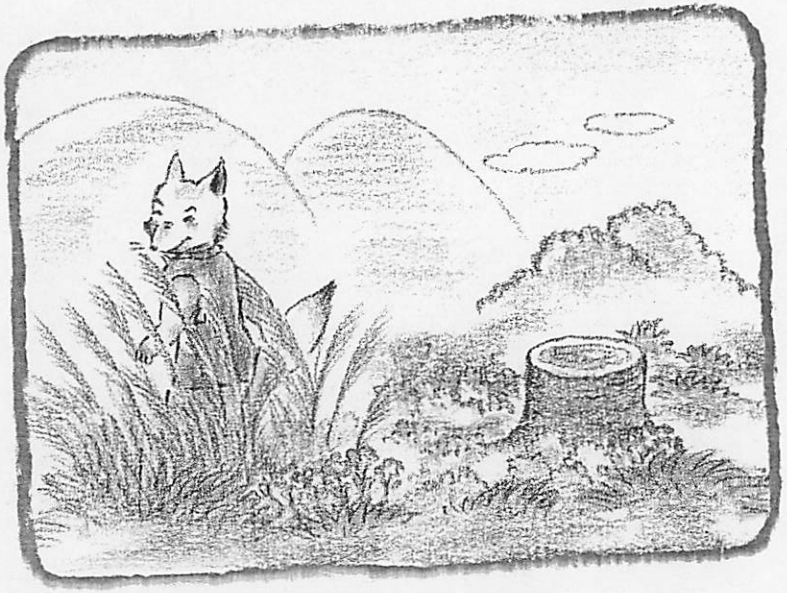
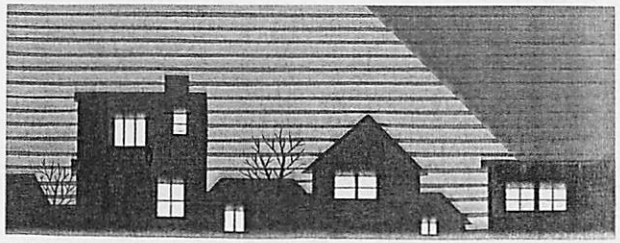


土の　うえに　おろされた
きつねは、はずかしそうに
どこかへ　いって　しまいま
した。
それから　きつねは、どう
して　いるのでしょうね。

## 23　ぎんの　しずく

「いちばん　いい　おかあさんに、ぎんの　しずくを　おとして　あげよう。」
そらの　ほしが　そう　おもいながら、ほうぼうの　うちの　まどを　のぞいて　まわりました。



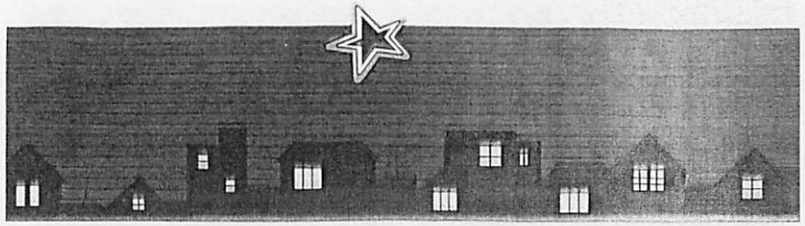
はじめの　うちは、ないて
いる　あかちゃんを　だいた
おかあさんが、こもりうたを
うたって　いました。
「ああ、なんて　やさしい
こえでしょう。きんの　すず
を　ならしたって、こもりう
たを　うたう　おかあさんに
は　かなわないわ。」

つぎの　うちでは、ひとりの
おかあさんが、こどもの　ほこ
ろびた　きものを　ぬって
いました。
「いちにちじゅう　はたらいて
つかれて　いるのに……。
かんしんな　おかあさんだこ
と。この　おかあさんが
いちばんかしら。」

その　つぎの　うちでは、おかあさんが　こどもを
しかって　いました。ほしは　びっくりしましたが、
すぐ　わかりました。

「よふかしさせたら、こどもは
いまに　からだを　こわして
しまうでしょう。しからなけ
れば　ならない　ときは、
しかった　ほうが　いいのだ
わ。この　おかあさんも
いい　おかあさん……。」





ほしは、たくさんの　おかあさんを　みま
した。どの　おかあさんも　みんな　いい
おかあさんで、いちばん　いい　おかあさん
を　きめる　ことが　できません。
そこで、ほしは、どこの　おかあさんにも
ぎんの　しずくを　おとしました。
――だから、あさ　おきて、おかあさんの
めを　みて　ごらんなさい。
それは　それは、きれいに　かがやいて
います。

# 23　ぎんの　しずく

4―(2)　父母，祖父母を敬愛し，進んで家の手伝いなどをして，家族の役に立つ喜びを知る。（家族愛）

## 1 主題の設定の理由

**〈ねらいとする価値について〉**

１年生の子どもたちは，入学式以来，小学校という新しい環境，新しい人との出会いの中で，日々心を躍らせながら生活をし，それぞれの成長を遂げている。しかし，この成長は，見返りを期待しない無償の家族愛という基盤なしにはあり得ないものである。

ここでは，自分たちが，いかに温かい家族の愛情に育まれてきたかを自覚させるとともに，それに感謝して，自分たちにできることがあれば，応えていこうとする気持ちを育てたい。

**〈子どもの実態について〉**

子どもたちは，昔と比べて，生活面で親にしてもらうことが多くなったにもかかわらず，そのありがたみを身にしみて感じることが少なくなった。特にこの時期の子どもは，父母の愛情を当然のように受け取る一方，自分の欲求が少しでも満たされないとわがままを言う傾向が強い。また，祖父母に対する敬愛の情も薄らいでいるといえよう。

その理由としては，核家族化や少子化が進み，家の手伝いが必要な機会が少なくなったこと，子どもを中心としたいわゆる「かわいがる」家庭の中で育てられていることなどが挙げられる。

**〈資料について〉**

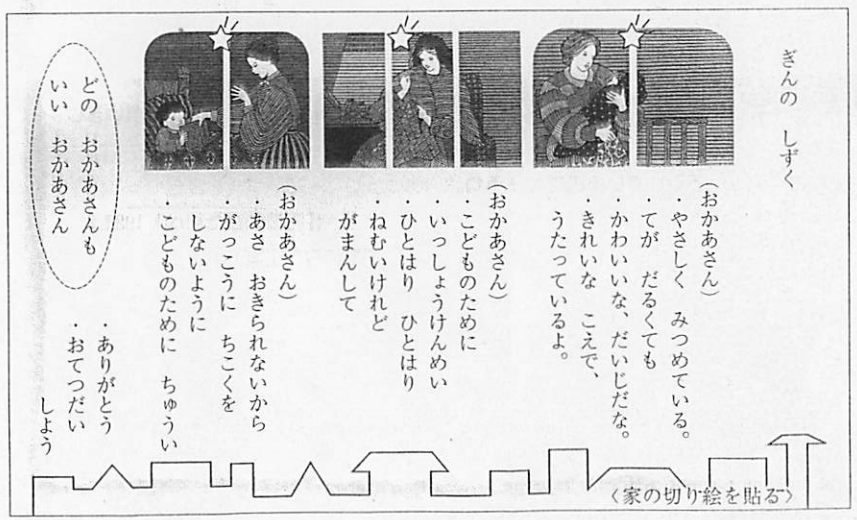
本資料は，一番いい母親にぎんのしずくを落とそうと考えた空の星が，方々の家を見て回った末，どの母親にもぎんのしずくを落としたというお話である。子どもたちは，資料の母親の姿に，自分の母親の姿を重ねて読んでいくであろう。

それぞれの母親のよさを考える中では，どの母親にも共通する子どもを思う心情に気付かせたい。特に，本を読んで夜更かしをする子どもに注意する母親も，子を思う気持ちからの振る舞いであることを感得させることが大切である。

## 2 ねらい

父母に感謝する気持ちをもち，家族のために自分ができることをしようとする意欲を高める。

□板書






## 3 展開

| 学　習　活　動 | 支援上の留意点 |
|---|---|
| (1)　**お母さんの仕事について話し合う。**<br>○　お母さんは，毎日どんな仕事をしていますか。<br>・ご飯の用意や洗濯をしている。<br>・わたしたちの世話をしている。<br>・買い物に行く。 | ・　母親のいない子どもに配慮する。<br>・　働く母親のイメージを想起しやすいように，いろいろな場面の写真（絵）を用意する。 |
| (2)　**資料「ぎんの　しずく」を読んで，話し合う。**<br>（P99からP102までの語りを聞く。）<br>①　みんなは，３人の中でどのお母さんが一番いいと思いますか。どのお母さんが一番いいお母さんか，みんなで「そらのほし」に教えてあげましょう。<br>（子守歌を歌っているお母さん）<br>・あかちゃんをやさしく見ているよ。<br>・手がだるくても，抱っこしている。<br>・かわいいなあ，大事な赤ちゃんだなあって思ってる。<br>（子どもの服を縫っているお母さん）<br>・子どものために，一生懸命だよ。<br>・一はり，一はり，縫っているよ。<br>・眠いけれど我慢しているよ。<br>（本を読んでる子どもをしかっているお母さん）<br>・朝起きられないからしかっているよ。<br>・学校に遅刻をしないように心配している。<br>・子どものために注意しているよ。<br>②　友達の発表を聞いて，どう思いましたか。<br>・子どもの服を縫っているお母さんもいいお母さんだなあって思った。<br>・どのお母さんもいいお母さんだから，一番いいお母さんが分からなくなっちゃったよ。<br>（P103の語りを聞く。）<br>③「そらのほし」は，どうしてどのお母さんにもぎんのしずくを落としたのでしょう。<br>・どのお母さんもいいお母さんだから。<br>・どのお母さんも子どものために一生懸命だから。 | ・　どのお母さんが一番いいお母さんか，子どもに決めさせるようにする。<br>・　役割演技を行うことによって，子どもの体験を引き出し，それぞれの母親についてよく考えることができるようにする。<br>・　母親の表情や仕草から子どもを思う気持ちが想像できるように，それぞれの場面絵を拡大し，提示する。<br>・　子どもの心の揺れや変化を丁寧に見つめて，発言を引き出す。<br>（P103を語り聞かせる。）<br>３人のお母さんにぎんのしずくを落とす（黒板にはる）<br>・　子どもの幸せを願う母親の愛情に優劣がないことが理由であることに気付くことができるようにする。 |
| (3)　**自分たちの生活について振り返る。**<br>○「そらのほし」から，みんなのお母さんにも，ぎんのしずくを落とすようにと，しずくを預っています。星は，みんなのお母さんのどんなところに，しずくを落とそうと思ったのでしょう。<br>・おいしいご飯を作ってくれたり，掃除もしてくれる。<br>・病気のときに世話をしてくれる。<br>○　そんなとき，みなさんはどんな気持ちになりますか。<br>・お母さん，ありがとう。<br>・お手伝いしようかなあ。<br>・今度お母さんが病気になったとき，看病しよう。 | ・　自分たちの生活が，母親の世話になっていることに気付くことができるようにする。<br>・　ぎんのしずくを子どもの人数分用意し，子どもたちに渡す。<br>（時間がない場合は，帰りの会などでもよい。） |
| (4)　**教師の説話を聞く。**<br>○　先生は，２つのしずくを「そらのほし」からもらいました。一つは，お母さんへ，もう一つは，……そう，お父さんへです。最後に，先生のお父さんのお話をしますね。 | ・　教師の父親に対する思いを聞き，父母に対する敬愛の念を深められるようにする。<br>（心のノート　P72～75） |